

## 徳川慶喜揮毫の池宮神社扁額



「慶喜」の落款



「三つ葉葵」「葉三花三」  
飾り金具の家紋

よみ とくがわよしのぶきごうの  
いけみやじんじゃへんがく  
指定 市指定有形文化財  
種別 書跡  
所在地 御前崎市佐倉5162番地  
所有者 池宮神社  
指定日 平成28年11月25日

### 詳細情報

寸法 縦 84cm 横 181cm  
作者 徳川慶喜  
製作年代 1868年(慶応4年・明治元年)

### 解説

『徳川慶喜揮毫の池宮神社扁額』は、池宮神社拝殿内に掲げられている。扁額の構造は、扁額の四隅に留め金具があり、それとは別に上部と下部に3個、左右に1個ずつ、円形の飾り金具があしらってある。その飾り金具のうち、上部と下部の中央と左右の合計4つの飾り金具は徳川家の家紋である「三つ葉葵」の紋様が表現されている。それ以外の4つの飾り金具は、池宮神社の宮司である佐倉家の家紋「葉三花三紋」が表現されている。

この扁額には「慶喜」の落款が押されており、江戸幕府第十五代将軍であった徳川慶喜が明治時代初期の1868年(慶応4年・明治元年)5月30日に社号「池宮神社」を揮毫し、奉納したと伝えられている。

また、平成28年2月に池宮神社が愛知東邦大学の増田孝教授(古文書学者・書跡史学者)に依頼して、この扁額書の鑑定をしている。その結果、徳川慶喜の自筆に間違いのないとの鑑定結果が出ている。

この徳川慶喜と池宮神社の両方に関係する人物としては、1884(明治17)年9月27日に第3代静岡県令に就任し、1886年の地方官官制公布により初代県知事となった関口隆吉があげられる。この扁額は、徳川慶喜との親交が深かった関口隆吉の父である隆船が池宮神社の出身であったことから、徳川慶喜が揮毫してくれたものと考えられる。

『徳川慶喜揮毫の池宮神社扁額』は大変丁寧に作られた堂々たる佳品であり、幕末から明治時代初期に活躍した徳川慶喜や関口隆吉などの人物やその時代の歴史を伝える品とも言えることから、御前崎市及びこの地方の文化史上たいへん貴重なものである。